

歴史資料館

ワークショップ「紙ねんどでつまみ人形をつくろう」

歴史資料館では、「奉公さん」などで親しまれている郷土玩具である「つまみ人形」を紙ねんどで作るワークショップを行いました。自由に色んな形を作り、それに鮮やかに色を塗るなど、楽しみながら「つまみ人形」に親しまれました。

(金崎知裕)



▲つまみ人形作りの様子

「匠の技☆ピカール」で石屋さん体験

当館では、石を磨く「匠の技☆ピカール」(有料)を体験できます。牟礼・庵治町で採掘されている庵治石を、昔ながらの手法で肌理の荒い砥石から細かい砥石へと順番に磨いてもらう体験です。一面約 90 分かかりますが、昔の石を磨く工程がどれだけ大変な作業だったかを体感できます。磨けば磨くほどピカピカになる手間隙かかる作業なので、当日中に出来なくてもいつでも何度でも来館いただければ再開可能です。ぜひ、お越しの際はチャレンジしてみてください。(受付 10:00 ~ 15:30)

(松ヶ枝浩子)



▲石磨きの様子

現地研修会「全国の国分寺跡を訪ねる」

讃岐国分寺跡資料館友の会では、年3回ほど古代の史跡などを訪ねる現地研修会を実施しています。特に全国の国分寺跡を訪ねる研修会では、全国に遺されている国分寺跡を巡ります。普通のツアーでは行けないような場所を巡るため、ご参加くださった皆さまから好評を得ています。平成24年度は 1 泊で美濃・伊賀・伊勢の国分寺跡を訪ねており、平成25年度は日帰りのコースを予定しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください!

(仁木智恵)

讃岐国分寺跡資料館



▲晝後国分寺跡を訪ねる

ワークショップ活動報告「竹細工で鬼おろし作り」

当館で、最近口コミで人気急上昇の竹細工講座を紹介します!

今回は「鬼おろし」という、大根おろし器作りを行いました。「竹の歯をはめ込むところが大変だったけど、完成して良かった!」と皆さん満足されました。

鬼おろしを使うと、水っぽくならず大根本来の甘みを楽しめるので、料理にも大活躍です。昨年は一輪挿しの花器作りも行うなど、竹細工を楽しむ方が増えています。講座開講の際はぜひご参加ください!

(伏見由希)



▲鬼おろし作り

香南歴史民俗郷土館

ー サポーター活動「おもちつき」で活躍されている中村麗子さん(池西婦人会会長)ー

毎年旧正月にあわせて行っているイベント「昔の道具でおもちつき」にご協力頂いている中村麗さんは地元香南地区の行事に積極的に参加をされている池西婦人会の会長さんです。

中村さんはお餅を返す「きなどり」もお見事!「杵で手つきをして作ったお餅は、機械で作ったのと違って断然美味しいのよ」と一所懸命にお餅をつく子どもたちを優しくサポートしてくださいました。次々と丸められたあん餅や黄な粉餅は、皆で美味しくいただきました。郷土館でおもちつきをすることについて「大人も子どもも一緒にあって、杵や臼にふれあえる機会があるのはとても良いことだと思う。毎年続けていきたい!!」とたくましく語ってくれました。そして「子どもたちが喜んでくれるのが、なにより嬉しい」と微笑む中村さんの周りには、お餅を美味しそうに頬張る子どもたちの笑顔が溢れていました。

(伏見由希)



各館の館長コラムをリレーでお届けします。

私の自宅は、四国八十八箇所札所八十八番國分寺と八十一番白峯寺を結ぶへんろ道「四国の道」沿いにあり、出勤時にはほぼ毎日数人の「歩き遍路」と出会います。老若男女問わず多岐に渡り、夫婦連れや数人のグループも見受けられますが、その殆どが一人旅です。四国遍路も終盤の地だからか、その顔は皆日焼けし、そこはかとなく逞しさも感じます。

彼らは何を求めて旅立ち、この旅の中で何を心得、何を失ったのか。或いはそんな事は全く無意味なのか。様々な思い・想いが私の傍らを通り過ぎてゆきます。

平成9年にこの地で開催された「国民文化祭」のテーマは「祈りの道と文化」でした。

「祈りの道」の傍らに在る「讃岐国分寺跡資料館」は古の「物」を伝えるだけでなく、「想い」を伝え、未来への光を感じることのできる資料館でありたいものです。

(讃岐国分寺跡資料館長 宮武和弘)



▲へんろ道にのこる丁石

向うのみどころ

知る Knowledge

・空を翔けた御座船「飛龍丸」と前輪駆動型の自転車
そらをかけたござぶね「ひりゅうまる」とぜんりんくどうがたのじてんしゃ

・『文藝春秋』創刊号とステッキ
『ぶんげいしゅんじゅう』そうかんこうとすてっき

・石引き風景と石工さんを探せ!
いしびきふうけいといしくさんをさがせ!

・文字瓦と軒丸瓦の花文様
もじがわらとのきまがわらはなもんよう

・中山城山と郷土館内庭園
なかやまじょうざんをきょうどかんにいていえん

かたる Column

・館長リレーコラム
(讃岐国分寺跡資料館)



【まいまいこ】
ぐるぐるとまわる、という意味の讃岐の方言「まいまいこする」からつけました。

集 つどう Workshop

- ・ワークショップ「紙ねんどでつまみ人形をつくろう」
- ・菊池寛記念館「文学探訪」
- ・「匠の技☆ピカール」で石屋さん体験
- ・現地研修会「全国の国分寺跡を訪ねる」
- ・ワークショップ活動報告「竹細工で鬼おろし作り」

むすぶ Link

・サポーター活動

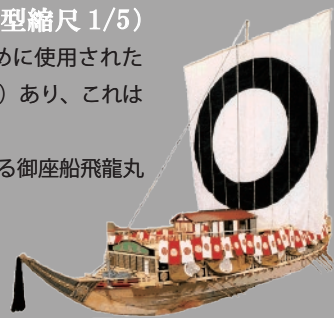
あなたと五館を結ぶ情報誌
第6号

空を翔けた御座船「飛龍丸」(模型縮尺 1/5)

飛龍丸は、主に参勤交代の時に高松と大坂を往復するために使用されたお殿様専用の御座船です。実際の船の全高は81尺(約24.5m)あり、これはサンクリスタル高松の建物とほぼ同じ高さです。

お殿さまは高松城の水手御門から小舟で出て、沖に停泊する御座船飛龍丸に乗船し、参勤交代や船遊びに出かけていたようです。

この模型はクレーンで吊り上げて非常口の搬入口を通して館内に設置されました。お殿様もビックリの空を翔けた御座船でもあります。



▲高松藩御座船「飛龍丸」

歴史資料館



高松市昭和町1-2-20
(サンクリスタル高松4F)
Tel.087-861-4520
開館時間:9:00~17:00
月曜休館(休日の場合は翌日)



▲前輪駆動型の自転車と川崎舎竹郎

『自ら西洋の風を慕ひ(中略)人の未だ見聞せざる新説を吐く是を以て余之を奇とし怪とし…』と評されており、私はかなり変わり者だと思われていたみたいです。



前輪駆動型の自転車

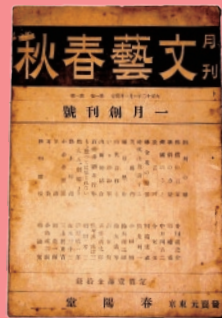
自転車は明治初年から輸入され、明治10年頃からは国産の自転車も作られました。当時の自転車は現在の価格で数百万円に相当する高級なものでした。

高松では西浜の豪商、川崎舎竹郎が自転車を作り、また乗り回した最初の人といわれています。明治の街をどんな風を感じて走ったのでしょうか?

歴史資料館 金崎 知裕

『文藝春秋』創刊号

今から90年前の大正12年、菊池寛は雑誌『文藝春秋』を創刊しました。定価は他誌より安い10銭、28頁の薄い冊子でした。目次も兼ねた表紙には、芥川龍之介、川端康成、直木三十二(直木三十五)などが名を連ねています。寛はこの雑誌で「対談」や「座談会」などの企画を成功させ、売り上げを伸ばしていきました。



▲「文藝春秋」創刊号

『私は頼まれて物を云ふことに飽いた』で始まる、寛の創刊の辞は有名です。



菊池寛記念館



高松市昭和町1-2-20
(サンクリスタル高松3F)
Tel.087-861-4502
開館時間:9:00~17:00
月曜休館(休日の場合は翌日)



▲書斎の復元コーナー

▼ステッキ



館内には、馬の置物や、競馬を見るときに使った双眼鏡も展示しています。

菊池寛記念館 久保 清子

ステッキ

書斎の復元コーナーに展示の「ステッキ」、良く見ると持ち手が馬の頭のデザインになっています。これは、競馬好きの寛が、持ち馬が優勝した時の記念品として、友人や関係者に贈ったものです。競馬で「儲けたと思ったことは一度もない」と言う寛は、純粋に競馬の予想を楽しんでいたようです。

石引き風景

常設展示室に入ると目に飛び込んでくるのは、石工さんたちの石引き風景です。

シュラに乗せられ、ドーンと座る石は4トン! もちろん本物の庵治石です。ボタンを押すとロクロに引かれてゆっくりと動きます。

4トンの石が動く様子はまさに圧巻です!



▲石引き風景

石の民俗資料館



高松市牟礼町牟礼1810
Tel.087-845-8484
開館時間:9:00~17:00
月曜休館(休日の場合は翌日)

まるで100年前にタイムスリップしたような風景は、一見の価値ありですよ。石工さんたちがどこにいるか探しに来てください!



▲石工さんのお仕事風景

石の民俗資料館では、大正時代の石工さんたちがイキイキと仕事をしています。

といっても本物の人間ではありません。初めて見る人の中には、本物の人間と間違えて思わず声をあげてしまう人や、「何度見てもドキッとする」、という人がたくさんいるほど精巧に作られています。中には実在する石工さんをモデルに作られた人形もあり、おまけにイケメンぞろいです!

石の民俗資料館 中川 志穂美

石工さんを探せ!

文字瓦

讃岐国分寺跡・東面築地跡からは、国分僧寺の正式名称である「金光明四天王護国之寺(こんこうみょうしてんのうごこくのてら)」の一部を「へら書き」した丸瓦が1点出土しています。文字は瓦の左側に片寄り、端の一部が切り取られていますが、「國分金光明」と読むことができ、讃岐国分寺跡で出土している文字瓦の中でも貴重な瓦といえます。

「へら書き」とは、粘土が柔らかい内に工具などを使い文字を書き込むことです。

國分金光明



▲文字瓦

讃岐国分寺跡資料館



高松市国分寺町国分2177-1
Tel.087-874-8840
開館時間:9:00~16:30
月曜休館(休日の場合は翌日)



▲軒丸瓦

軒丸瓦は屋根の軒端に葺かれる瓦で、一見して菊やガーベラなどにも見える花文様が施されていますが、これは「蓮の華」を表現したものです。「蓮の華」は、泥水の中から咲きながら、その泥水に染まらず清らかで美しいことになぞらえて、聖なる花とされ、仏教のシンボルになっています。

文様のパターンは様々で、見比べてみるのも面白いですよ。

讃岐国分寺跡資料館 仁木 智恵

軒丸瓦の花文様

中山城山 (1763 ~ 1837)

香南町出身の儒学者(古文辞学)中山城山は、今年(平成25年現在)で生誕250年。多くの立派な弟子たちを育成し、久米通賢の鉄砲作りにも協力しました。香南歴史民俗郷土館では知られざる陰の功労者・城山先生の魅力を紹介中です。ぜひ、城山先生(陶像)に会いに来てください!

香川の郷土史研究においては欠かせない『全讃史』も私が作成しました。



▲中山城山陶像

香南歴史民俗郷土館



高松市香南町由佐253-1
Tel.087-879-0717
開館時間:9:00~17:00
月曜休館(休日の場合は翌日)



▲庭園外観(左)とアオブスク・植木鉢ドール

郷土館やすらぎの場所、和風庭園には、由佐城の土塁跡や旧由佐邸の灯笼が残り歴史を感じさせると共に、山頭火の歌碑、メダカが泳ぐ小川、ゴーヤのカーテンもあり紅葉や水仙などの四季折々の自然風景が楽しめます。運が良ければアオブスクの飛来が見られることもあります!

お散歩の際には隠れた植木鉢ドールも探してみてくださいね!

香南歴史民俗郷土館 伏見 由希